

2011年(平成23)5月

カルメル
霊性センターニュース



5月

265号

DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十章 孤独と沈黙とを愛する

5 あなたの部屋を愛しなさい

心からの聖なる痛悔を起こそうと一心に努めなければ、誰も天の慰めを受ける値打ちがないのである。もしあなたが心から痛悔しようと思うならば、あなたの部屋に退いて、騒々しい世間を避けなさい。「あなたの静かな部屋のうちにあって、痛悔を得るであろう」(詩編4・5)と記されている通りである。部屋での潜心の時、あなたは外でしばしば失う事柄を見いだすであろう。好んで長く住めば住むほど、部屋は楽しくなる。しかし部屋を留守にしがちだと、自然に嫌悪するようになる。回心の初めから、好んで部屋に住んだならば、後にそこはあなたのなつかしい友となり、もっとも狭い慰めの場所となるであろう。

6 沈黙は神に近づかせる

沈黙と静寂とのうちにあって、敬虔な魂は徳を進め、聖書の奥義を学ぶのである。自分を洗い清めるために、この部屋で夜ごとに涙を流すであろう。騒々しい世間を離れれば離れるほど、創造主に親しく近づくことができる。知人、友人から離れる人に、神は聖なる天使を連れて近づいて来てくださるであろう。霊的な善をないがしろにして奇跡をおこなうよりも、隠れた生活のうちに、自分の靈魂を守るほうがよりよいことである。ごくまれにしか外出せず、人に見られることを避け、また人を見ることさえ避けるのが、修道者としてふさわしい人である。

心の泉



うまずたゆまず
イエスを目指しなさい

みことばの英知は
闇 あるいは甘味さのうちに
自らを示されるでしょう *

—幼きイエスのマリーエウジェンヌ ocd—



—復活されたキリスト—

ご復活おめでとうございます。春爛漫の自然界はまさにいのちの祭典、キリストのいのちの勝利を祝う喜びはさらに深まります。

キリストが生きた「よろこび・闇・希望の神秘」はキリスト者の生活の内でも成就していきます。ご受難の前にキリストは一つのことだけを祈りました。それはおん父とご自身がひとつであるように、すべての人がご自分とひとつであることでした。キリストとのこの一致はキリスト者にとって不可欠です。

何故でしょうか。神は人となり、わたしたち人間を救われました。わたしたちはキリストのものです。イエスは彼のすべての態度、そしてすべての行いをもってわたしたちを愛されました。ご受難の痛ましい出来事を越え、底にこめられているイエスにおける神の力強い慈しみの愛を日々の生活のなかで見出すことができますように。この愛から何ものもわたしたちを引き離すことはできません。

イエスよ、わたしにわからせてください。

あなたにもっと注意を向け、わたしたちの貧しさについての光りを受け入れて、あなたがわたしに何を待っておられるのか、何を受け入れなければならないのかをさとらせてください。

ときとしてキリストの光はわたしたちのために輝きます。けれどもその後、光りは消えてしまいます。その光りは実はまだ実現されていないことがらへの呼びかけ。それを実現させるためには、光の呼びかけに従わなければなりません。けれどもその光りは闇でしかありません、光りへ向かって開かれる暗夜です。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』より、聖母の騎士社

エデンの園 (7)

くのり 彰

人間の知性の目が開かれると、自己意識が生じ、自己は意識する自己と意識される自己に分裂していく。この意識の作用が、人間を動物と分かち、人間を人間たらしめていると考えられるので、そのこと自体は実に喜ばしいはずなのだが、聖書では、これが原罪として描かれている。

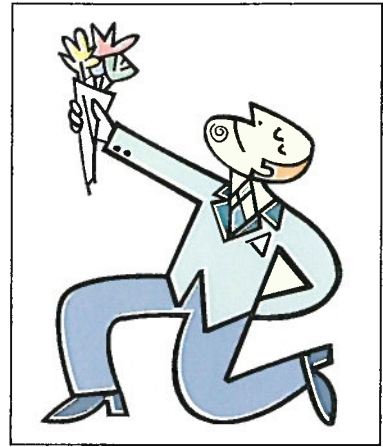
この事実は、まことに興味深く、考えさせられる。どうして、人間が人間であることの原点が、原罪となるのであろうか。自己意識は、自己反省を生み、人類は何千年何万年という年月をかけて、偉大な文化、文明を築きあげて来た。これまた喜ばしいことであり、この恩恵を現代人は、享受している。何も問題はないかのようである。

しかし、自己意識が生まれることによって、人間と神の間に距離が生まれてしまう。「取って食べるなど命じた木から食べたのか」(3:8)。この神の声が響く前に、アダムとエバは、すでに「善悪の知識の木」の実を食べることによって、自分たちの行動を反省し、神の命令に背いたこと、すなわち罪を犯したことを知り、園の木の間に隠れる。

なぜ隠れたのかと言え、罰を恐れたからであろう。自己意識が生まれる前から神は存在しているのであるが、神が神として意識されることはなかった。自分自身も人間として意識することはなかったであろう。善悪を区別することなく、言わば動物のように、本能のままに生きていたのである。

ところが、原罪を通して、人間は神の存在を意識し、罰を恐れ、神から身を隠すようになる。神から離れようとし、神の存在を無視し、神の意志ではなく、自分の意志を行なうようになるのである。この状態を、イエスは、ルカ15章の「放蕩息子」のたとえで示していると思われる。もちろん、この「放蕩息子」は、言うまでもなく、直接的には、イエスの周りに話を聞こうとして集まって来た当時の「徴税人や罪人」(15:1)を指していることは明らかである。彼らは現実に律法を守らず、罪を犯している人々である。けれども、「放蕩息子の兄」、すなわち「ファリサイ派の人々や律法学者たち」(15:2)も、律法を表面的に守っているだけで、律法を与えた神の心、すなわち「父親」の心からは離れているのである。そのいい証拠は、放蕩息子がもどって喜んでいる父親の心が理解できず、怒って家に入ろうしなかった彼の態度にの内にいる(15:28)。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (143)



与えることと受け取ることの尊厳

「だれも、与えるものが何もないほど貧しくはなく、まただれも受け取るものが何もないほど豊かではない」。ヨハネ・パウロ二世のこの言葉は、平和のために働くことを望むすべての人に、力強い指針を与えています。世界が二つのグループ、すなわち与える人々と受け取る人々に分かれたままである限り、平和は考えられないでしょう。まことの人間の尊厳とは、与えるばかりでなく、受け取ることにも見出されます。このことは、個人の間ばかりでなく、国々や文化や宗教的共同体の間にも妥当します。

平和のまことのヴィジョンは、与えることと受け取ることの間絶えざる相互性の中にあります。与える人々から私たちが何を受け取っているのかを問うことなく、何も与えないようにしましょう。また与える人々に私たちが何を与えなければならないかを問うことなく、何も受け取らないようにしましょう。

(0402)

受け取る時と与える時

いつ世話すべきか、またいつ世話されるべきかを知ることは、重要です。しばしば私たちは、お返しに何かを求めることなしに、与え、与え、与えたいと思うかもしれません。私たちは、これを寛容さのしるし、あるいは英雄主義のしるしと考えます。けれども、それは、単に「私は他人からの助けを必要としない。ただ与えたいだけだ」という誇らしげな態度にすぎないかもしれません。受けることなしに与え続けるならば、私たちはすぐに燃え尽きます。私たちが自分の身体的、感情的、精神的、霊的の必要に注意深く注意をはらっている時のみ、私たちは喜びに満ちた与え主であり得、またあり続けることができるのです。

与える時があり、受け取る時があります。私たちが健やかな生活を送りたいならば、両者に対し平等である必要があります。

(0611)

(九里 彰訳)

復活節第2主日（神の慈しみの主日）

「見ないのに信じる人は、幸いである。」（ヨハネ 20：19-31）

今日、カトリック教会は神の慈しみの主日を祝います。“慈しみ”はキリストの救いのメッセージの根幹です。“神ご自身の御名、その御顔は旧約聖書の中で、またキリストご自身において豊かに現わされた神の創造と贖いの愛を具現化したものである”と、ベネディクト 16 世教皇は仰います。教皇は法王に選出される時のお説教で、前教皇のヨハネ・パウロ 2 世が強調された神の慈しみの要旨を述べられました。“イエス キリストは人となられた神の慈しみです；キリストとの出会いは神の慈しみとの出会いを意味します”と。

私たちの多くは聖女ファウスティナに現れた主キリストのご絵を見たことがあるでしょう。イエスは聖女に信じる人々に与えたい慈しみについて語られました。大切なことは、イエス キリストとその約束を真実に信じることです。多くの人々は生ぬるいのです。毎週日曜日、典礼の朗読に耳を傾け、日々聖書を読みます。けれども変わらないのです；本当に信じないからです。私たちはよく知っています、もし真実に信じていたなら、私たちは生活を改めていたでしょう；この世の快樂を棄て、主がわたしに望まれることをしていたでしょう。だから主は聖女ファウスティナに主の聖心を指し示されるのです。その聖心から流れ出る二色の愛の光線は、洗礼の水と、聖体祭儀のキリストの御血を表しています。

今日の福音の中で、私たちは、聖トマがキリストの十字架の神秘とその復活を信じ受け入れたときに与えられた信仰と神の慈しみを眺めます。主の復活の夕方、イエスが初めて弟子たちにその姿を現わされたとき、トマはそこにいませんでした。“イエスは生きておられる”と告げられたとき、トマは宣言しました：“あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、私は決して信じない”（20：25）。

一週間後、イエスは再び弟子たちに現れ、トマに言われました。“あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい”（20：27）。考えてみましょう、私たちの救い主イエスが、信じなかったトマに示された慈しみの大きさを！トマの勝手な要求を、慈しみの主は受け入れて下さったのです！

私たちもトマのようにイエスとじかに触れて、主の受難の御跡や主の愛の啓示に手を置いてみましょう。特別に主が私たちを引き寄せ、御自身を与えて下さるのは、御聖体の秘跡においてです、この秘跡の内に現存し、身近にいてくださるイエスと出会い、親密にお話することを学ばねばなりません。イエスは、私たちの旅路の糧とさえなってくれる方なのです。赦しの秘跡において、主はその慈しみをはっきり見えるものとし、いつも赦しと平和をお与えになります。

イエスはトマに言われました。“わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである”（20-29）。ですから、私たちが主を信じ、その信仰を生き抜き、日々主を証しする者となるならば、人々に復活の主との出会いを与え、人生の意味と喜びを見出す助け手となるでしょう。信仰を守り、信仰に生き、信仰を与えましょう！

(Sr. Paulina)

復活節第三主日 A 肋 24, 13-35

「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(肋 24, 32)。

今日の福音は、エマオでの二人の弟子たちへの復活者の出現として有名な場面です。福音朗読の冒頭に、原文では「彼らの中の二人」と書かれていますが、これは、日本語訳のように「二人の弟子」ととってもよいのです。そもそも、イエスの「弟子」とは、イエスにどこまでもついて行く人のことなのです。しかし、この二人は、確かに一度は、イエスに望みをかけた弟子であったかもしれませんが、イエスの受難、十字架の死、葬りを目撃し、イエスへの期待も信頼も喪失し、弟子であることを放棄する道を、暗い顔をして、歩み始めていたのではないのでしょうか。その歩みは、ユダヤ人たちの手から逃れるだけではなく、イエスからも遠ざかる、イエスを捨てて行くことでもなかったのでしょうか。その二人に「イエスご自身が近づいてきて、一緒に歩き始められた」。イエスは、二人の弟子の心のすべてを汲み取っています、イエスに従う決断をした喜びに満ちた心の躍動も、また、その心が人間の弱さ、限界から揺らいで失望のうちに打ちのめされ、イエスから離れて行く決断を取ろうとしている悲哀、痛みも。イエスは、そのすべての弱さを抱擁するように、二人と歩みを共にし、寄り添って心に語りかけます、人間の思いを超えた神の約束を成就なさるやり方を、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていること」を。二人は、そのとき自分たちの心の奥底でのイエスのお言葉の働きを把握していたわけではありません。それが把握できたのは、「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると二人の目が開け、イエスだと分かった」、この時にです。ここで思い起こすべきは、イエスが、徴税人や罪人たちと一緒にした食事、「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためであると宣言された食事です（参照肋 6, 27-32）。二人は、イエスから離れて行く道を取り始めた自分たちのような不信仰な罪人を招くために、イエスは十字架の死を受け入れた、それが御父の計画であった、とイエスがパンを裂かれたときに分かったのです。わたしたちにとっても、イエスの死と復活を祝う聖体祭儀の参加が、イエスの真実に出会う時、自分の生活の全局面で共に歩んでくださるイエスに気付く視力を与えられ、また、イエスの真の弟子への歩みを始める、勇気と導きをいただく時なのです。 ルカ渡辺幹夫

復活節第4主日 (A)

イエスは良い羊飼い (ヨハネ 10:1-10)

今日は“良き牧者の主日”として知られています。イエスは私たちの良い羊飼いです。今日の福音でイエスは、ご自分の弟子たちへの愛を羊飼いの羊への思いに譬えて話しておられます。

日曜日、教区司祭が要理クラスの子どもたちに話しました。教区司祭は羊飼いのようであり、教会の信徒たちは羊のようであると。そこで彼は子供たちに尋ねました：“羊飼いは羊たちに何をするかな？”“前列の小さな男の子が答えました。”羊の毛を刈るよ“と。

確かに僅かの羊飼いは羊の毛を刈り、搾乳し、食用に供するでしょう。しかし聖書が神の民の指導者としての牧者を語る時、それは羊を育て、守り、大切にしたい羊飼いを彷彿とします。聖ヨハネの福音では、イエスは良い牧者であるばかりでなく、羊の門であるとも言われています。これは、イエスが良い牧者として、人々をご自分の豊かないのちへと導かれるだけでなく、イエスご自身がそのいのちに至る道であることを意味しています。

けれども羊飼いと羊について偏った批判的な見方をする人もいます。羊は愛らしい動物ですが自立の精神に欠けています。夢中で牧草を探すあまり、狼や野獣に対して無防備になり、たやすくいのちを失ったり道に迷ったりしてしまいます。だからこそ羊飼いが必要なのです。けれどもこのような理由で、ある人々は羊のようだと言われることを好まず、牧者の必要性も感じません。彼らは自分の力で完璧に行動出来ると考えています。

事実、私たちは自分のことは自分で処理し、解決出来ない問題はないと考えることを好みます。でもこの確信をよそに私たちの周囲で起こる様々のことは私たちを動揺させます。私たちは自分自身の小さな世界にあっても安全ではありません。自分の罪深さと現代社会の悪のために、常に弱い状態に留まっています。多くの人は愛情と同情、思いやりを探し求めています。現実の世界は憎しみ、激怒、暴力で引き裂かれています。薄っぺらな上辺だけの規律があるにも関わらず、現実には秩序の無い混沌としたものです、牧者を持たない羊のようです。

一方、心から信頼を寄せる羊の姿と休むことなく羊を守り続ける羊飼いの姿には何かほのぼのとしたものを感じます。そこには言葉では十分に表現できない強い絆があります。今日の福音を読んで、私たちは羊の門として、また良い羊飼いとしてのイエスの存在を心から有難く思います。第二朗読で聖ペトロは熱心に勧めています。良い牧者としてのイエスの生き方をただ一つの模範として生きるように。

イエスのご生涯は、そのご受難の真ただ中においても、また十字架上の死の瞬間においても天の御父に捧げられていました。こうして、キリストは私たちを常に気遣い、行くべき道を示してくださる良い牧者であることを証しして来られました。私たちは試練や困難の中にあっても、主に信頼し、委ね、各々の生活に立ち向かって行くことが出来るのです。

(Sr. Paulins)

復活節第五主日 A ヨハネ 14, 1-12

「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」(ヨハネ 14, 12)。

今日の福音は、「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」とのイエスの勧告で始まっていましたが、この言葉は、弟子たちが、イエスの受難、死によってその根底から揺さぶられ、心騒がせられ、イエスを見捨てて逃亡する、この悲劇、人間の卑怯さ、愚かさ、自己中心主義が露呈されるときをまちかにした最後の晩餐の中での言葉です。しかし、奇異に感じられるのですが、この箇所全体の調子を支配しているのは、イエスが弟子たちに対して抱いている信頼感ではないでしょうか。「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」。弟子たちの脆弱さ、罪に傾いた卑怯さ、信頼に値しない姿に対置されるのは、イエスの彼らへの信頼、信用、大胆なまでの期待、肯定感の大きさなのです。実は、もう一つ、場違い感を引き出すものがあります、復活節の第五主日に、十字架の死を目前にしたイエスの言葉が読まれる、これです。しかし、イエスが、弟子たちの信頼のなさ、卑怯さ、罪をすべてを背負い十字架の上でご自分の血で贖い出し、御父のもとに過ぎ越された、それが復活であるならば、「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」とのお言葉は、弱い人間としての弟子たちへの信頼と言うよりは、むしろ、その弱さ、罪への傾きさえをも、御父の御業の成就に貢献する何かに変容する力、ご自分の過ぎ越し、十字架の死と復活の内に開示される御父の力への信頼、また、ご自分の生涯への確信である、と言わなければならないでしょう。

『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だから、キリストの力がわたしのうちに宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」(2コリント 12, 9) と、福音の宣教者パウロは吐露します。教会が実践するようにと招かれている業とは、宣教であることは確実です。しかし、その働きは、教会が持っている人間的レベルでの力、財力、権力、あるいは、文化力といったものを誇示することによって果たされる以上に、人間の弱さがあらわになる十字架、苦難、困難、迫害の試練の時を、その底で働いている復活者イエスの送ってくださる聖霊に信頼して耐え続ける、このとき大きな業をさせていただいているのです。ルカ渡辺幹夫

***** みことばのひびき *****

復活節第6主日 (A)

あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

(ヨハネ14：15-21)

今日のような混沌とした、方向性のない社会では、掟は人々の生活をわずらわしい拘束するもの、自由のないものにする押し付ける圧迫するような規制や命令と思われれます。本日の福音で、イエスは掟に新しい解釈と意味を与えています。この文の中心部分でイエスは二つの重要なメッセージを述べています。

第一は、神の掟を守ることは常に愛の枠内にあるということです。私たちの父である神は子供たちを愛し、私たちが光と愛の子供になり、神の存在を自分たちの間に発することをのぞまれます。イエスはご自分が掟を完成し、神と隣人の愛の中に全ての掟を統合するために来たのだといわれています。掟は拘束するわずらわしい法則ではなく、自由になり神の愛を体験する手段です。第二に、イエスを愛するために、私たちは自分の生活の中でイエスを個人的に体験しなければなりません。私たちは知らない人を愛することはできません。人はもう一人の人の存在や、その人についての知ることを必要としています、とりわけ愛を伝え、体験するためには、その人をひき付け招くその人の中に在る愛の神秘に出会う必要があります。

私たちは、自分では神を愛することも知ることもできません。ここで質問です、自分ではできないならば、ではどうしたら神を知り愛することができるのでしょうか？イエスは一度だけ私たちのためにこの質問に答えています。もし神を愛し、神を知り、神の掟を守りたいならば、イエスが送ってくださる聖霊を受け入れなければなりません。私たちの生活の中で私たちにイエスを体験させ、真のキリスト者にするのは私たちの中に住む霊です。私たちはキリスト教徒としての生活と祈りに忠実であり、神の慈しみを感謝することによって、私たちの中で働き、住んでおられる霊を体験します。私たちは「向こうの」誰かとしてではなく、私たちの内側に住んでおられ、私たちの最も深い部分で御父と御子の現存を知ることができるようにしてくださる存在として聖霊に出会い、体験します。霊だけが変容をもたらすことができます。「神の霊に導かれる者は皆、神の子なのです」(ローマ8：14)。私たちの生活は霊を通して御父へ向かう絶え間ない動きであり、イエスはその死と復活を通して私たちそれぞれに対する道をあきらかにして下さいます。聖ペトロは本日の第二朗読で、イエスは肉では死に渡されましたが、霊では生きるものとされたと言われます。

イエスの掟は愛に要約されます。それは、弟子の全生活様式の表現です。神の命令を完成することは完全な従順を必要とする難しい事ですが、イエスに対する愛によって動機づけられ、また信じる者が聖霊という助け手を持つとき、よりたやすくなります。ですから、神の愛と生命を体験し成長する方法として、神の掟を受け入れることができるために、私たちのそれぞれに聖霊が注がれるように祈りましょう。

(Sr. Paulina)

世田谷上野毛に教会がある。教会にはいつもの時刻にミサがある。時には結婚式があり、時にはお葬式があり、時には洗礼式がある。同じ道すじ、交叉点の信号、たくさんの車の流れ。 変わることはない我が家があり、同じ曜日に同じテレビドラマの続きをみる。手帳をひらいて明日の予定を確かめ、ついでに来月の予定もみる。洗濯物を取り込んで炊飯器のスイッチを入れる。

私たちは日常というものをことさらに疑うことはありません。今日の次は間違いなく明日が来て予定したことは多分行われていくのです。

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災は疑うことをしないこの日常を瞬時にして完膚なきまでに破壊しました。

壊滅という言葉がこれ程に現実であり、これ程に実感であった経験はありません。大地震に加えて 500 年に一度とも云われる巨大津波の襲来で、海も街も畑もすべて呑みこまれ、押し倒され、押し流されました。家も学校も船も自動車も、それに、それに、切にかけがえのない愛する者をも無残に壊し尽くしたのです。

報道される映像を、日本中が世界中が息をのみ、立ちすくみ、声を上げることもできずに茫然としてみつめました。 悲惨を極める状況は、目を追っていよいよ深く確かになり、次々と目の前に現れる生々しい残骸の光景、人々の極まりない悲嘆の姿、声はとても正視できず、真正面から受けとればこちらの身が壊れてしまいそうで、無意識にとっさに心閉ざす自分に気づいて愕然としてうろたえます。深い無力を心底思い知りつつも見届けよう、聴き届けようと必死で心呼び戻します。

私は先月、本誌 4 月号に載せる原稿をいつもどおりに用意していました。編集室へ送ろうとしていた矢先の大震災でした。 偶発的符合としか云いようがないのですが原稿は実に「水」をテーマとしていたのです。 水との親和のよろこび、水との絆、水の美しさ、サマリアの深い井戸、水清きふるさとなど、水への思念を追い、祈り、書き留めました。 それは私の日常であり私の営みであるのですが、それにしても何という平穏な日常であり何という平穏な水なのでしょう。 落差などということを遥かに越えて大津波は私の日常、私の水、私の心を打ちのめしました。 掲載は無理でした。

この度の震災は原稿のことも深く関連して、私の70余年の生涯で太平洋戦争と並ぶ重大な出来事となっています。戦争の時は子供でした。そして今度は老人です。実働として出来ることはないのですが、しかし、この時代この時間に居合わせた一人として、しっかりと自分のこととして生きることなのだと思っています。何を念じ何をするのかを忘れてはならないと思います。

今はただ衝かれるようにして、臨床家として被災地入りする友人やかつての「いのちの電話」の仲間に応援というよりは嘆願を伝え、毎日朝刊と夕刊に表示される死者の数と不明者の数を自分のノートに書き写し、数万人にも及ぶ数字の中の見知らぬ人々、そこからひきちぎられるように離された人々の悲嘆に少しでも寄りたいたと祈ります。

魂の奥底で主イエズスに教えられ、促され、導かれて唇にのぼる「天にまします」の祈りは、限りない悲しみでありながら時として鎮魂の地平を感じさせます。

復興には長い年月を要するでしょう。問題は山ほどあるでしょう。

「大丈夫、必ずやるよ。これまでやれなかったことはなかった。

考えてごらん、本当にいろいろなことの中を生きてきたじゃないの。

たとえ私たちが生きて見届けることできないとしても、でも必ずやる。」
親しい友と語り合った時のこのことばは、互いに後期高齢者などといわれるほどの人生を歩んだ者としての実感であり、心からの深い信頼であるのです。

満開の桜の下、時あたかも四旬節です。

主の受難と復活はこれまでになく深いしるしであり、天を、地を、全ての人を覆う恵みであるのだと心の底から深く深く思い覚えます。

人間の力を信じ、日本人の心意気を信じ、いつかきっと「日常」と日常にある「水」を再び手にするように「私は深い淵からあなたに呼びわります」。

花の季節はやがて若緑の季節を迎えます。それから輝く太陽とおおらかな水の季節です。躍動する笑顔を切に待ち望みます。

「志をはたして いつの日にか帰らん 水はきよきふるさと」はあらゆる全ての人の終着であり希望なのです。

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その5

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボックスメルで履足カルメル会に入会。修練期の間、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新新聞の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ強制収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとつて大きな喜びとなった。



福者テトス・ブランズマ
(ナイメーヘン大学学長として、1932年)

—— 祈り ——

十字架の道行きの黙想——聖ボニファチウス教会のために

第3留 イエス 初めて倒れる

無力さのうちにある全能。私たちの力強い神は要求に耐えられず、処刑人たちとの対決に向かう力がありません。彼は、力を使い果たしてしまわれたのです。私の救い主は、よろめきながらも歩み続け、突然つまずいて倒れます。おお、神よ、あなたの姿をご覧ください。彼らは、ここであなたを十字架に磔(はりつけ)にすることはできなかったのでしょうか。彼らの目的は、あなたを死なせることなのです。彼らには、あなたがもう歩き続けることができないということが分からないのです。あなたは歩き続けなければなりません。それが、処刑人たちの意思なのです。あなたの無力さは、彼らにさらなるいら立ちを感じさせます。彼らの目には、あなたの力はまだ使い果たされていないのです。彼らは、一瞬の間あなたを一人置き去りにしたかと思うと、今度はあなたを立ち上がらせ、無理やりに歩き続けさせます。あなたを蹴ったり打ちたたいたりすることで、あなたの残っている力を刺激することができると思っています。彼らは、あなたが自ら進んで十字架を担いたいと望み、彼らの要求どおりに余力を私たちに示したいと望んでおられることも、理解していません。おお、聖なる鑑(かがみ)よ、私たちが十字架の下にくずおれ、それ以上進むことができないとき、私たちの無力さは、あなたがお倒れになったことのうちに慰めを見出すのだということが、今、分かります。私たちの十字架は、たとえそのもとにくずおれても、恐れなければならぬ、あなたの十字架より軽いのです。おお、私の神よ、私の罪が、あなたがそのもとにくずおれなければならないほどに、あなたの十字架を重くしてしまったことを、私は知っています。ですから、あなたとともに私の十字架を担い、たとえその重みにくずおれたとしても、しりごみしてはならないということ、一層強く確信することができます。あなたは、弱さのうちに、世に打ち勝たれました。私をあなたとともに弱い者とし、命の重荷のもとに低く身をかかめる者としてください。新たな苦しみを引き受ける心構えをもって、あなたとともに立ち上がる時、私の犠牲の冠となる死のときまで、この世の目には、私が取るに足りないつまらない者に見えるようにしてください。

あなたが十字架のもとに倒れ、人があなたを虫けらのように踏みつける時、あなたにまなざしを注ぎ続けることをおゆるしください。あなたは、祝福を与えたいと望んでおられるその人たちから蹴られ殴られることを、お受け入れになられます。あなたが、誇りに満ち頭を高く上げて十字架の木を運ぶ、力に満ちた強い方だと、いつも考えてしまうことのないようにしてください。身をかかめ、倒れなければならなかったキリスト、十字架の下にくずおれなければならなかったキリストは、このようにしてこそ栄光に入られたのです。その聖なる人間性は、破壊されなければなりません。これほど残酷な仕打ちをお受けになられたのですから、人間としての姿は何も残らないでしょう。このとき、すでに、彼は力を失ってしまったのだということが、私たちには分かります。私の神よ、無情な処刑人たちの手から受けるあなたの辱めをしばしば黙想させてください。それによって、私に苦しむことを学ばせて下さい。私が自分の望みどおりのことをする能力のある人間だと、人々が思うことのないように。

* * * * *

この記事は、既足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 4月

わたしが願うことではなく、
御心に適うことが行われますように。

(マルコ 14・36)

イエスは、ゲッセマネと呼ばれるオリーブの園におられました。イエスがずっと待っておられた、人生の決定的な瞬間が訪れたのです。心からの信頼と愛を込めて、イエスは「父よ」と神に呼びかけながら、「この杯」(受難と死)を取り除いてください、と請い願われました。その時が過ぎ去るように、と祈られたのです。しかし最終的には、御父のみ旨に再び完全にご自分をお委ねになり、次のように言われました。

**わたしが願うことではなく、
御心に適うことが行われますように。**

イエスは、ご自分の受難が、偶然の出来事でも、単なる人間の決定によるものでもなく、神のご計画であることをご存知でした。たとえ人間による裁判にかけられ、人間から拒絶されたとしても、この「杯」は神の御手から来るものだとしておられたのです。

御父が私たち一人ひとりの上に、愛のご計画を持っておられ、私たちが個人的に愛して下さることを、イエスは教えておられます。私たちが御父の愛を信じ、それに愛でこたえるなら、御父はすべてを善のために用いられることを、イエスは教えてくださいます。

イエスにとって、偶然に起こることは何一つありません。受難と死も同様です。

そして、イエスは復活されました。今月私たちは、荘厳に復活祭を祝います。

復活のキリストは、私たちの生活を光で照らして下さいます。出会うすべての出来事、周りの状況、また私たちに苦しみを与えるものも含め、すべては、私たちが愛される神が望まれて起こること、または許されて起こることなのだ、と心にとめましょう。そうすれば、生活の中では、すべてに意味があり、すべてが本当に私たちの役に立つでしょう。その場では理解に苦しみ、不可能に感じられることや、イエスのように死の苦悩を味わうようなことであって

も、同様です。そうした時にも、イエスと共に、御父の愛を全面的に信じて、繰り返し言いましょう。

**わたしが願うことではなく、
御心に適うことが行われますように。**

私たちが人生の中で受けるすばらしいものを喜び、感謝することを、御父は望んでおられます。しかし時には、神のみ旨が私たちの考えるものとは異なる場合があります。み旨は、私たちが苦しみに出会う時、やむを得ず受け入れるものではなく、また、単調な生活の繰り返しとも違います。

み旨とは、絶えず私たちに語られ、私たちが招かれる神の声です。ご自分の豊かないのちをお与えになるため、神は、み旨という方法を用いて、私たちへの愛を表されます。

神のみ旨を、太陽にたとえて考えることもできるでしょう。私たち一人ひとりに対する神のみ旨は、太陽から出る光線のように、各々が自分の光線の上を歩みます。私の光線と隣の人の光線は違いますが、太陽の光線、つまり神のみ旨という点では、同じです。すべての人は等しく神のみ旨を生きるのですが、一人ひとりに対するみ旨はさまざまです。各々の光線は太陽に近づけば近づくほど、互いに近くなります。私たちも、み旨を常に一層完全に生きることで、ますます神に近づき、同時に、私たちの間でもだんだん近くなり、やがて皆が一つになるでしょう。

このように生きるなら、生活の中で、すべてが変わってきます。自分の気に入る人とだけ接して、愛するのではなく、神が私たちの傍らに置かれるすべての人に近づいていくことができるでしょう。また、自分の好きなことだけをやるのではなく、神のみ旨が教えて下さることを心にかけて、そちらの方をもっと喜んで果たすことができるでしょう。私たちが、その時その

時の神のみ旨に全面的に心を向けるなら、他のすべてのものや自分自身への執着は消えていくでしょう。執着を断とうと努めなくても、ただ神を求めることにより、結果的に執着はなくなり、私たちは満ち満ちた喜びを味わうでしょう。今の瞬間の中にしっかりとどまり、次のように言いながら、その時の神のみ旨を果たすことです。

わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。

過ぎ去った時はもう存在せず、未来の時はまだ私たちのものになっていません。これは電車で旅をする人に似ています。目的地に達したいからといって、人は電車の中を行ったり来たりせず、座席に座っているものです。このように、

私たちは今の瞬間の中にしっかりとどまる必要があります。時の電車は、自然と進んでいきます。私たちは、与えられた今という時の中で、神を愛することができ、み旨に対して、力強く、全面的、積極的に「はい」と答えながら、神を愛することができます。

ですから、ほほ笑みかけること、仕事をする、車を運転すること、食事の支度をする、活動を準備することなどを、心を込めて果たし、また、周りで苦しんでいる人を愛するようにしましょう。

試練や苦しみに出会っても、イエスと共に、そこに、神のみ旨や私たち一人ひとりへの神の愛を見出すなら、恐れはなくなるでしょう。むしろ私たちは、次のように祈ることができるかもしれません。

「主よ、私が何も恐れることのないようにしてください。すべての出来事は、あなたのみ旨だからです。

主よ、私が何も望むことのないようにしてください。あなたのみ旨以上に望ましいものはないからです。

人生の中で、何が大切でしょうか。あなたのみ旨です。

私が何にも落胆することのないようにしてください。すべての中には、あなたのみ旨があるからです。

私が何にも高ぶることのないようにしてください。すべては、あなたのみ旨だからです」と。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2003年4月に発表されたものです

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

先月のいのちの言葉の体験談

「何一つ偶然に起こることはありません。…すべてに意味があります。あらゆる出来事・状況・人々は神のメッセージを伝えるものです。神のご計画が成就するために、すべてのことが役に立つのです。」といのちの言葉にありました。

私は会社に勤めています。ある日取引先のお客様を迎えに行くことになりました。しかし大切な用事ができ困っていると、同僚が、「私が代わりに行きますよ」と言ってくれました。しかしその後、私は自分の果たすべき仕事を人に任せてしまったのではないかと、神様はお客様を迎えに行くことを望まれていたのではないかと、後悔し始めました。そこで私のように、いのちの言葉を生活の中で生きようと努めている友人ならどうするだろうと、携帯から電話して相談しました。友人は「過ぎたことは神様に委ね、今の瞬間愛すること」をアドバイスしてくれ、私は神様の愛に信頼して、今すべきことに集中することにしました。しばらくし、同僚から電話があり、やはり彼女も迎えに行くことができなくなったと連絡がありました。私はその知らせから、やはり神様は私がお客様を迎えに行くことを望んでおられたのだ、それを私に教えてくれたのだ、という喜びのうちに、お客様を迎えに行くことができました。(SM 長崎)

★ お知らせ

関東：「いのちの言葉」の集い

日時：4月10日（日）14：00

（13：30 受付）

場所：藤沢市労働会館

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

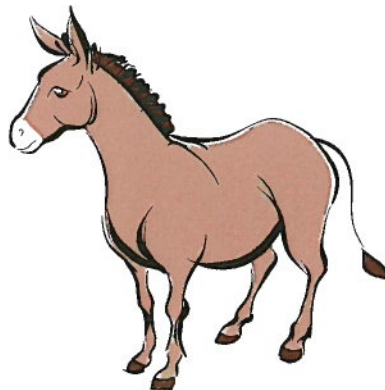
十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (47)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

グラナダからマラガ (2)

十字架のヨハネのマラガへの旅において起きた事件は、それほどおおげさものではありませんが、噂にならないわけにはいきませんでした。創立される修道院の院長となるキリストのマリアが乗ったラバが、或る瞬間、怒り狂ったわけでもないのですが、「急に驚いて、滅茶苦茶に走り出し、暴れ回り、キリストのマリア修母を大変な勢いで大きな岩へほうり出しました。修母は岩に激しくぶつかったので、それを見ていたすべての人々は、彼女が死んでしまったと思いました。ひどい苦しみと悲しみに襲われながら、すべての人々が馬から降りました」。痛ましい光景となったのですが、伝記作者は続けてこう語っています。「修母は、しばらくの間、聖なる神父が到着するまで、頭にひどいけがをしたまま、意識を失っていました、神父は手を彼女の頭にのせ、ハンカチを当て、傷の血をぬぐいました。その後、修母は、意識をとりもどし、その後も旅を続ける気持ちになったのです」。

このような災難を幸いにして克服しながら、彼らは1585年の二月中旬、マラガに着き、17日には、最初のみさを捧げました。

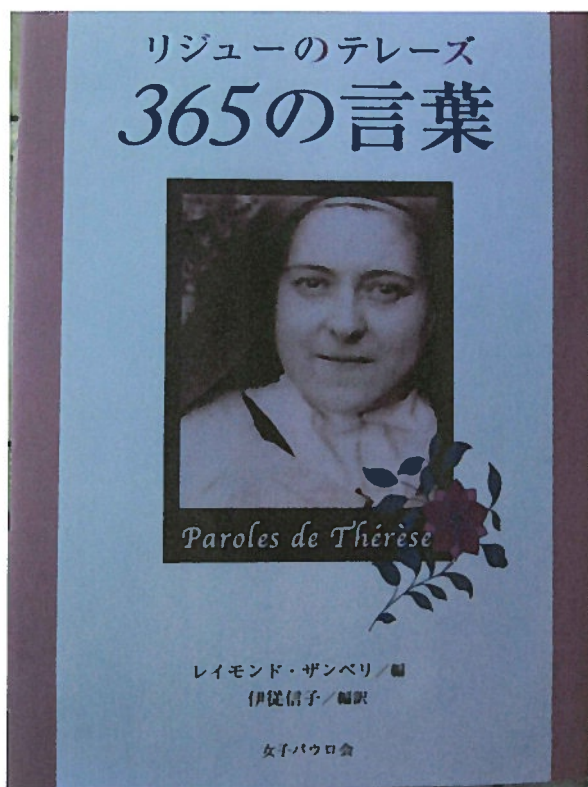


新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

カルメル会出版物のご案内



「観想」を読むー

2010 冬 No.339

● 目次 ●

愛の断章 (18)	奥村一郎	57
小さくされたマリア様 ——マリアと私たち	谷口正子	50
「小さい道」の巡礼者 (11) テレーズの修練者——三位一体のマリー	中山真里	43
死に臨む言葉 ——エディット・シュタインの アウシュヴィッツへの道ゆき (1)	須沢かおり	35
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (5) 麥容までの長い道のり マリー・エウジェニス 編・訳 伊從信子	九里 彰	28
「どこにお隠れになったのですか」 (6) ——十字架の聖ヨハネに見る靈的旅路	九里 彰	22
三位一体のマリアの歌 (2) 私は愛に渴いている	ベトロ・アロイジオ	16
カルメルの靈性の源流を探して (2) ——その「公訓」に見る生活	中川博道	8
馬屋の靈性 (8) 聖母マリアへのお告げ 1	高橋重幸	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンポスコ書店等) できます。定価は、一冊460円です。

- 送付希望の方は、600円【内訳 400円(十送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300円】、送料分【700円】)として、3000円を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。)

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～'12年3月
黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

6月17日～18日

9月 9日～10日

11月11日～12日

2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

7月31日(日)夕食～8月 9日(火)朝 中川博道神父

8月11日(木)夕食～8月20日(土)朝 カルメル会士

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ《いのち》

6月16日 「いのちの言葉」 福田正範神父

9月15日 「ほまれある長寿 ―知恵の書4章8～9節について―」 ベルナルド神父

11月17日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅神父

2012年

1月26日 「永遠のいのち ―霊から生まれた者は霊である―」 中川博道神父

4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

5月20日 「ご復活のラウレンシオ」 中川博道神父

7月 8日 「神の預言者聖エリヤ」 ベルナルド神父

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅神父

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 カルメル会士

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
4月29日(金)15時～ 5月 1日(日)15時
7月16日(土)15時～ 7月18日(月)15時
11月25日(金)18時～11月27日(日)15時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
10月8日(土)15時～10日(月)15時

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2011年 4月21日(木)～24日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ：「私は神を見たい」

5月27日(金)20時～29日(日)16時 「聖霊に導かれて」

27日は夕食を済ませてご参加ください。

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導：古川利雅助祭

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2011年6月17日（金）18時～18日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



2011年

「キリスト教の基本を学ぶ」

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館ホール)

いずれも 金曜日

朝のクラス <<10:30~12:00>> 夜のクラス <<19:30~21:00>>

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月27日	「聖書への親しみを持つことから」	
2	6月10日	「天地創造の物語を読む」	創世記1章1節~2章3節
3	6月24日	「あなたは誰？」(1) 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b~2章25節
4	7月8日	「あなたは誰？」(2) 聖書の人間へのまなざし	
5	7月22日	「人間の問題性」(1) 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記3章
6	7月29日	「人間の問題性」(2) 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記4章
7	8月26日	「信仰を生きるとは？」 信仰の祖 アブラハム	創世記12章
8	9月2日	「人間の問題性に関わる神」 聖書のメインテーマとしての「脱出」	出エジプト記1章~3章
9	9月16日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ1章35節~42節
10	10月7日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	10月21日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものとおして	マルコ10章45節 Iコリント11章23節~26節
12	11月4日	「キリストに近づく」 —洗礼と永遠の命—	ヨハネ3章1節~21節
13	11月18日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ1章26節~38節
14	12月2日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2) 教会共同体の原型としてのエリザベトとの出会い	ルカ1章39節~56節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

5月 10日	5月 6日
6月 7日	6月 3日
7月 5日	7月 1日
9月 13日	9月 9日
10月 11日	10月 14日
11月 8日	11月 11日
12月 6日	12月 9日

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2011年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

5月17日	5月20日
6月14日	6月17日
7月12日	7月15日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

キリスト教放送局放送中
ラジオ (月) 夜 10:15~
インターネット放送 いつでも (2回分)

キリスト教放送局
FEBC

2011.4.3~2011.10.1

●インターネット放送● www.febcjp.com ●ラジオ放送● **AM1566kHz**
24時間、いつでも聞けます 毎日更新 毎夜9:30~10:45 全国放送

月
夜10:15~
今を生きる
キリストを
求めて



中川 博道
カトリック
カルメル会司祭
上野毛教会主任司祭

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

聖霊に導かれる日々の生活のために

2011年5月27日（金）20時～29日（日）16時

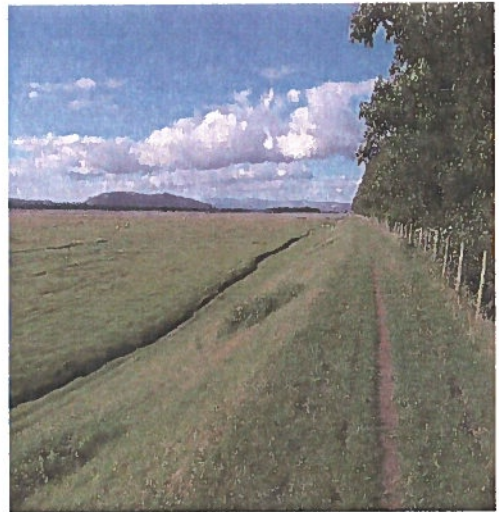
現代社会の狂騒の中でも、祈りたい、神に出会いたいと望む方々へ。
さらに深く神と出会うために

しばらく沈黙のひと時を過ごしてみませんか。

神の霊によって導かれる者はみな
神の子です。

あなたがたは
人を奴隷として 再び恐れに陥れる霊ではなく
神の子とする霊を受けたのです。
—マ8・14-15—

聖霊よ わたしが必要とし、わたしが望み、
あなたのみ業を実現するために
あなたが必要としている
あなたとの親しい絆を
わたしのうちに造ってください。
「神と親しく生きるいのりの道」より



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、
『神と親しく生きる いのりの道』 マリー・エウジェンヌ ocd 著、聖母文庫
（黙想の家で購入できます）
筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12,000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355
- 申し込み方法 上野毛黙想の家係りまで

2011年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

- ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)
 - 5月21日(土)～22日(日) 希望 新井延和神父
 - 7月 2日(土)～ 3日(日) 今日を生きる 新井延和神父
 - 9月 3日(土)～ 4日(日) 人を赦すこと 九里彰神父
 - 11月19日(土)～20日(日) ユダヤ人の王 新井延和神父

【聖書深読黙想会】

- ・ 1日 (午前10時～午後4時)
 - 4月30日(土) 渡辺幹夫神父
 - 6月11日(土) 松田浩一神父
 - 10月 8日(土) 九里彰神父
 - 12月10日(土) 新井延和神父

・ 水曜の黙想

- (午前10時～午後4時)
 - 5月 11日(水) 聖霊の賜物 松田浩一神父
 - 6月 22日(水) 三位一体 新井延和神父
 - 7月13日(水) 幼子の心 九里彰神父
 - 9月14日(水) 私たちの生活と十字架の十字架 松田浩一神父
 - 10月12日(水) ロザリオの祈り 松田浩一神父
 - 11月 2日(水) 死とは何か 新井延和神父
 - 12月14日(水) 愛の生ける炎 九里彰神父

- ・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)
 - 12月 3日(土)～12月 4日(日) 松田浩一神父

- ・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)
 - 9月30日(金)～10月 1日(土) 伊従信子師

- 【一般のための黙想】 (午後5時～午前9時)
 - 5月 3日(火)～ 5月 5日(木) 新井延和神父

- 【青年のためのキリスト教霊性 対象：40歳以下の青年男女】
 - 5月 7日(土)～ 5月 8日(日) 松田浩一神父
 - 11月5日(土)～11月6日(日) 松田浩一神父

- 奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)
 - 8月 3日(水)～ 8月11日(木) 松田浩一神父
 - 8月18日(木)～ 8月26日(金) 九里彰神父
 - 12月27日(火)～ 1月 4日(水) 新井延和神父

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
 宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

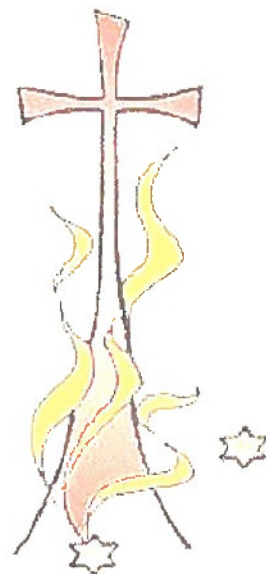
【参加者人数】

6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土) |
| ② | | 2月18日(金)～19日(土) |
| ③ | | 3月25日(金)～26日(土) |
| ④ | | 4月15日(金)～16日(土) |
| ⑤ | | 5月13日(金)～14日(土) |
| ⑥ | | 6月17日(金)～18日(土) |
| ⑦ | | 7月22日(金)～23日(土) |
| ⑧ | | 9月 9日(金)～10日(土) |
| ⑨ | | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ | | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ | | 12月16日(金)～17日(土)★ |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ⑬ | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ⑭ | | 3月16日(金)～17日(土) |

(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日常静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	1月10日(月・祝)	混沌の中に差し込む光(創世記1章)	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月26日(土)	主が示される地に向かって(創世記12章)	松田浩一神父(宇治修道院)
第3回	3月12日(土)	絶望の中の光(イザヤ43章、65章)	高山貞美神父(聖心布教会)
第4回	4月9日(土)	新しい派遣(列王記19章)	新井延和神父(宇治修道院)
第5回	5月5日(木・祝)	新しい契約(エゼキエル36章)	今泉健神父(上野毛修道院)
第6回	6月25日(土)	神の国の芽生え(マルコ4章)	三上和久神父(三馬修道院)
第7回	7月18日(月・祝)	わたしの中に生きるキリスト(ガラテア2章)	ボクダン神父(南山教会)
第8回	9月17日(土)	キリストの新しい掟(ヨハネ13章)	Sr.パウリナ(宣教カルメル修院)
第9回	10月22日(土)	新しい生活(改革)、アヴィラの聖テレジア	松田浩一神父(宇治修道院)
第10回	11月23日(水祝)	新しい生き方の根、十字架の聖ヨハネ	九里彰神父(宇治修道院)

* 時間 AM10:00~PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム
 10:00~ 祈り・導入・黙想
 10:30~ 講話(1)
 黙想・赦しの秘跡または面接
 11:50~ 昼の祈り・お告げの祈り
 12:15~ 昼食
 12:50~ 黙想・赦しの秘跡または面接
 13:30~ 講話(2)
 14:45~ ミサ
 15:30~ 茶話会・分かち合い
 16:00~ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へ「ガキ」FAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2011年度名古屋聖書深読会

第1回 5月28日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月29日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。
信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

「イエスの聖テレジア生誕500年記念祭の企画運営委員会設立」



2011年3月12日スペイン、マドリッド発：

跣足カルメル修道会は、今日イエスの聖テレジア生誕500年記念を祝し、その記念行事を実施して行くための運営委員会を設立した。

この新しく創られたチームは、スペインで企画・組織される聖テレジア生誕記念祭の行事運営と広報の中心的な役割を一貫して担うことになった。同委員会は、さらに他の国々にもこの記念祭の関連行事のために準備委員会を設立するよう奨励し働きかけることになっている。現在準備中の主な活動は、スペイン語王立アカデミーとプラド美術館の共催で企画されている絵画と写本の展示である。また同委員会はすでに、アビラ教区及びスペイン司教協議会と一致して一連の記念行事について話し合いの上準備を推進している。

運営委員会の委員長に跣足カルメル修道会の副総長のエミリオ J・マルティネス神父、副委員長にホセ・ルイス・アントニャンサス氏、委員はアヴィラ教区司祭Dr.ホルヘ・サソ神父、フリオ・ナヴィオ氏、ホセ・ルイス ヴェラ氏、アヴィラのCitesの学長であるフランシスコ・ハヴィエル・サンチョ神父、ホアン・ドバド神父、そして秘書としてアルフレド・アメスティ神父がそれぞれ任命された。

「聖テレジアとその自筆原稿」

ローマのテレジアヌムの神学部創立75周年(1935-2010)記念の一環として、また聖テレジア生誕500年記念祭の準備として、テレジアヌムで印刷されている”Archivum Bibliographicum Carmeli Teresiani(ABCT)”は、このたびトマス アルバレス神父の学術研究の貴重な著作を、「イエスの聖テレジアと自筆原稿の宝」というタイトルで出版した。その研究の中でトマス神父は、聖テレサの個々の自筆原稿を、「自筆原稿写本と今日」、「著者の人生における自筆原稿」、「本の執筆」、「400年を経た自筆原稿の変遷」というテーマで分析し、解説している。



諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

マリアの御心会

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

O1 05/19-05/23 沖縄・伊江島、沖縄県人向け内観(4泊5日)

K3 05/31(金)-06/06(木) 東京・小金井・聖霊会

★N2 06/24(金)-06/30(木) 滋賀・唐崎・ノートルダム

N韓 07/06-12 韓国グループ向け限定内観 滋賀・唐崎・ノートルダム

Y2 07/18(月)-07/24(日) 神戸・須磨・ヨハネ

S韓 08/13-19 韓国グループ向け限定内観 長野大鹿村・早々庵

S1 08/21(日)-08/27(土) 長野大鹿村・早々庵

M3 09/11(日)-09/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

N3 09/24(土)-09/30(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

K4 10/07(金)-10/13(木) 東京・小金井・聖霊会

★N4 10/20(木)-10/26(水) 滋賀・唐崎・ノートルダム

F1 11/4-9 福岡・黙想の家(5泊6日)

N5 11/15(火)-10/21(月) 滋賀・唐崎・ノートルダム

K5 11/28(月)-12/04(日) 東京・小金井・聖霊会

M4 12/11(日)-12/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会

真命山の霊性

通年のテーマ：

典礼暦年間で教会とともに祈る



祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

05月 12日 復活節

06月 09日 聖霊降臨の祭日

07月 14日 聖人の記念日 - 2

09月 08日 聖人の記念日 - 3

10月 13日 日曜日：主の日

11月 10日 待降節 - 1

12月 08日 待降節 - 2

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流
センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。
(要予約)



リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

夏学期: 古代末期教父時代 (2-7世紀)
5/7、5/14、5/21、5/28、6/4、6/18、7/2、7/9、
7/23、9/3、9/10

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所: 上智大学内 Kulturl-HaIm 1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●接心

秋川神冥窟 1泊2400円程度

関東

06月24日(金):20時30分-26日(日) 10時
08月07日(日):20時30分-14日(日) 10時
09月21日(水):20時30分-25日(日) 10時
11月02日(水):20時30分-11月6日(日) 10時

関西

7月30日(土)17時30分-8月5日(金)13時 宝塚市
連絡先 シスター田中 電話 0797-84-3111

●ミサ 水曜日 17時10分-18時
上智大学内 Kulturl-HaIm 1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時-18時30分 上智大学内 Kulturl-HaIm 1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分-16時 上智大学内 SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

5月7日、6月4日、7月9日、8月6日、9月10日、10月8日、11月12日、12月3日、
2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
Kulturl-HaIm 1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内
Kulturl-HaIm 聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会
マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

6月11日(土)10時-12日(日)15時(上石神井)
9月17日(土)10時-18日(日)15時(東村山)、
11月26日(土)10時-27日(日)15時(東村山)、
2012年 2月4日(土)10時-5日(日)15時(東村山)
*1泊5900円程度
[関西] 10月1日(土)13時-2日(日)15時(宝塚)

●アガペ会

6月18日(土)
10月22日(土)
2012年 1月21日(土)

説明会・集い(13時半～): 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室

ミサ(17時～): Kulturl-HaIm 1階テレジア聖堂

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

05/06 旧約聖書の神体験— 聞くことと見る

05/13 神認識の道— 理性と経験を通して

05/20 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味

05/27 歴史と信仰— 神と人間との出会い

06/03 新約聖書の神理解— 主なる父

06/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ

06/11-12 黙想会(上石神井)

06/17 救い主の役割— 人類の待望

06/24 神の国— イエスの告げるメッセージ

07/01 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える

07/08 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に

07/15 イエスは誰か— イエスの自己理解

07/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス

07/23 感謝のミサ(14時、上智大学内クトウルハイム2階、80人限定)

07/29 イエスの受難— その史実と意図

08/05 イエスの死— その救済的意義

上智大学内クトウルハイム2階

08/12 休み

倫理の基礎づけ

05/17 人間以外のものの意義— 世界の使用と聖化

05/31 創造・歴史・救い— イエスという中心

倫理的行為

06/07 行為の規範— 人間らしさと神の呼びかけ

06/11-12 黙想会(上石神井)

06/21 自己実現— 責任と自由

07/05 性格の形成— 自己受容と善への憧れ

07/19 人間の弱さ— 誘惑と罪

07/23 感謝のミサ(14時) / 上智大学内クトウルハイム2階

08/02 休み

08/16 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし / 上智大学内クトウルハイム2階

08/20-28 通う霊操 (18時-20時45分) / 上智大学内クトウルハイム2階

根本的態度

08/30 人生を生きる基盤— 信仰と希望

09/06 唯一の掟— 愛による完成

09/17-18 黙想会(東村山)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

5月14日(土)

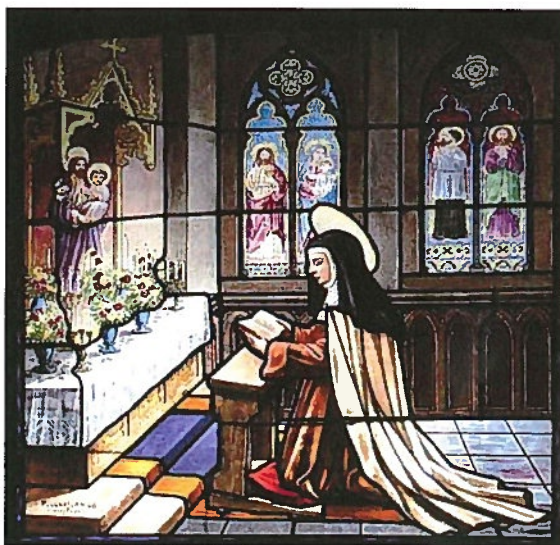
講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 4月29日(金)～ 5月 7日(土)
- ③ 6月 23日(木)～ 7月 1日(金)
- ④ 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ⑤ 9月 23日(金)～ 10月 1日(土)
- ⑥ 10月 19日(水)～ 10月 27日(木)
- ⑦ 11月 14日(月)～ 11月22日(火)
- ⑧ 11年12月27日(火)～12年1月 4日(水) 予定

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 了
- ② 了
- ③ 了
- ④ 5月20日(金)～ 5月22日(日)
- ⑤ 7月 22日(金)～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 2日(金)～ 9月 4日(日)
- ⑦ 12月 2日(金)～ 12月4日(日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

5月27日(金)～6月4日(土) 裏辻 洋二 師(イエス会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他 若干名

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい
方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

神を信じて生きてみる

神の美しさを見つめる
神よ、すべての美しさは、あなたを賛美しています

2011年 召命黙想会

日時 **5月14日(土) 15:00~**
15日(日) 15:30まで

場所 : ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導 : 山内 十束 神父 (御受難会)

対象 : 独身女性信徒

費用 : 2,000円

締切 : 5月8日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

「来て、見なさい」

「私はあなたと共にいる」

—主よ、私の道はどこに—

祈りと分かち合い

テーマ : 私が思う私の姿 5/8(日)

: 神のみこころ 6/12(日)

: 人々の中の私 7/10(日)

時間 : 14:00~17:00 *ミサはありません。

対象 : 自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所 : マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費 : 各回500円

担当 : マリアの御心会会員

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

【一日黙想会のご案内】

テーマ：マリアとともに

指導：幸田 和生 司教様（東京教区補佐司教）

日時：5月28日（土）10：00～16：00 受付 9：30～

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原 3-55-1

対象：男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。

会費：2,000円（お弁当代を含む）

申込み：5月21日（土）まで。電話〔0424-82-2012〕

FAX〔0424-82-2163〕

定員：80名まで受け付けます。

主催：コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

* 当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。北口を出て、線路沿いに西調布駅方面に歩く。立体交差の下をくぐり左折。踏切を渡って200m歩き、二つ目の信号を右手（鶴川街道沿い）マルガリタ幼稚園内。徒歩で20分。タクシーで5分。



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



The Communion of St Teresa

Juan Martin Cabezalero

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「靈性センターへの献金」のお願い

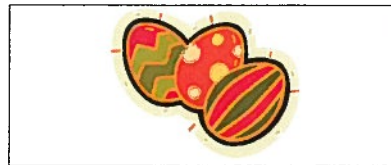
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください*

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

主キリストのご復活、おめでとうございます。十字架の死から、私達の主はよみがえられました。これは、現在、東日本大震災のため、絶望の底に突き落とされている被災者の方々にとっても、Good News (よい知らせ) ではないのでしょうか。神は、罪もないのにはりつけにされたキリストを、死の闇から解放されました。復活の事実は、神が確かにおられること、その神は主キリストばかりでなく、主を信じる私たちをも見捨てられないことを証ししているのです。

大震災のいたましい光景や悲しいNewsばかり見聞きしていた私達に、うれしいNewsも沢山ありました。諸外国からの国家レベルや民間レベルの援助の手、多くの国々で行なわれた募金やチャリティーの催し、一般の人々の励ましの言葉など… 世界は今や一つになりつつあるという感じがします。もちろん政治レベルでは国益や利害関係があり、さまざまな思惑が働いていることでしょう。でも、そうだとすると、つい百年前には考えられないような国際協力、助け合いが行なわれていることは、喜ばしいことです。被災地の復興が、一日も早く進みますように。

(P. 九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「6月号」製本日

5月24日(火)

上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171